

# インドネシア・スラウェシ島に生息する キノコを食べる甲虫、デオキノコムシ類の 生物起源

小川 遼

(神戸大学大学院農学研究科 昆虫多様性生態学研究室 学振PD)

2015年 5月 29日 (金) 17時～

14号館地下1階 多目的レクチャールーム

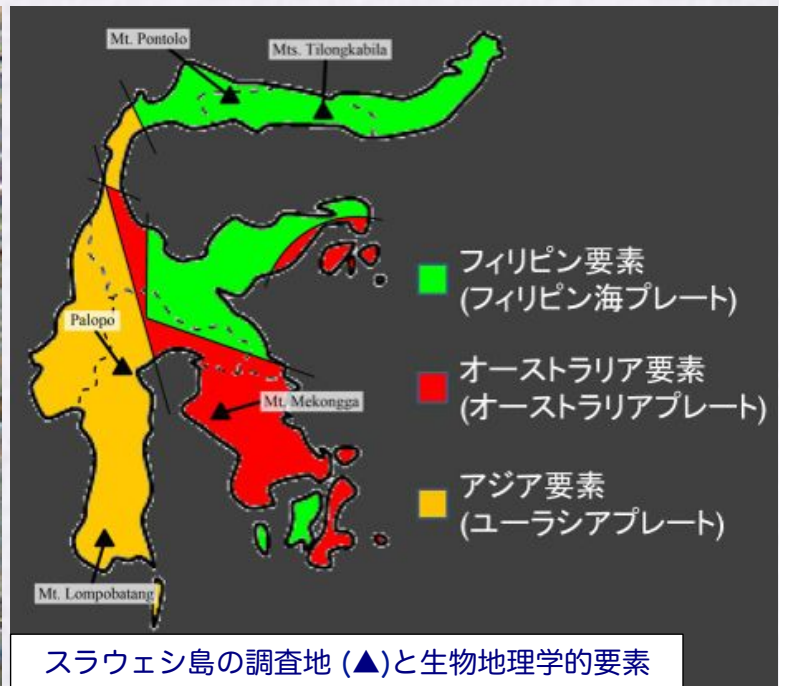
インドネシア・スラウェシ島は、ウォーレシアと呼ばれる東洋区からオーストラリア区への生物地理区移行帯の中心にあり、3つの大陸プレートの衝突によって形成されている。そのため、スラウェシ島は島内に複数の生物地理学的起源の要素を有しており、生物相の成り立ちを研究する上で非常に興味深い島として知られてきた。

デオキノコムシ類は、多くの種が腐食性であるハネカクシ科の中であって、菌類を利用することに特化した一群である。そのため、多くが森林の菌類上で得られ、その種多様性は高い。また、菌類の育まれる森林環境との関連性が強いことから、大陸の移動に伴う分散を議論する上で重要な一群であると考えられる。

本講演では、スラウェシ島におけるデオキノコムシ類の分類学的現状と生物地理学的起源を紹介する。



菌糸上のデオキノコムシ



スラウェシ島の調査地 (▲)と生物地理学的要素